



ひとひと 女・男 ひろば

< 第33回 >

女性のチャレンジを支援する 「チャレンジ・サイト」をご存じですか？

世界の中でも日本の女性は、持てる能力に比べて活躍度が低く、また、さまざまな機関が女性のチャレンジを支援する講座や情報を数多く提供しているにもかかわらず、多くの女性は必ずしも必要とする情報に効率的にアクセスできていないようです。

政府ではこのような状況を打破し、女性がその意欲と能力に応じてさまざまな活動に積極的に参画していくことができるように、チャレンジしたいと考える女性が必要とする情報をいつでもどこでもだれでも、欲しいときに容易に入手できる効率的な情報提供システム（「チャレンジ・ネットワーク」）の構築を進めています。今年の7月からは内閣府男女共同参画局ホームページで、チャレンジ支援関連情報を提供する「チャレンジ・サイト」の試行運用を始め、使いやすいページを目指して、本年度中には本格運用の予定となっています。何かにチャレンジする前に、一度アクセスしてみたいはいかがでしょうか。

◆「チャレンジ・サイト」のアドレス
<http://www.gender.go.jp/e-challenge/>

新津市の人口

	平成15年10月31日現在 前月比)	前年同月比
男	32,614 (+16)	(+131)
女	35,178 (+18)	(+16)
計	67,792 (+34)	(+147)
世帯数	21,677 (+43)	(+332)

10月中の動き

出生 45	死亡 37	転入 147
転出 121	結婚 33	離婚 9

代謝はホルモンなどによりコントロールされており、正常なときにはこの骨形成と骨吸収の働きのバランスが取れているのですが、このバランスが崩れて骨を壊す働きの方が強くなってしまう、骨量が低下して骨折しやすくなった病気が「骨粗しょう症」です。

骨代謝にはホルモンをはじめとしてさまざまな物質が関わっています。ビタミンDは血液中のカルシウム濃度を一定に保つように調整するのに重要な働きをしており、小腸でのカルシウムの吸収を促進する役割も果たしています。ビタミンCは骨基質の主成分であるコラーゲンを身体の中で作っていくのに必須のビタミンです。ビタミンKは最近の研究で骨代謝にも重要な役割を果たしていることが明らかになりました。（次号へ続く）

立ち上がれ！バイオリサーチパーク²⁴

地域交流講座

「21世紀を創るバイオの世界」

市では新潟薬科大学と連携して、今年度も身近な話題からバイオテクノロジーを学べる地域交流講座「21世紀を創るバイオの世界」を、10月から4回シリーズで開催しています。

今号から、新潟薬科大学の助教授陣によって行われているセミナーの概要をご紹介します。1回目は三宅紀子助教授の、骨の代謝のしくみについてのお話です。



三宅紀子 助教授

骨粗しょう症は高齢化社会を迎えて増加している生活習慣病のひとつです。骨粗しょう症という中高年の女性に特有の病気というイメージが強いかもしれませんが、男性でも年齢が高くなると骨量は低下しますので決して無縁の病気ではありません。また骨粗しょう症発症には

若いころからの生活習慣が非常に影響します。骨粗しょう症は高齡化社会を迎えて増加している生活習慣病のひとつです。骨粗しょう症という中高年の女性に特有の病気というイメージが強いかもしれませんが、男性でも年齢が高くなると骨量は低下しますので決して無縁の病気ではありません。また骨粗しょう症発症には

「骨の栄養と骨粗しょう症の予防のために」(その1)
講師 食品・栄養科学研究室助教授 三宅紀子 さん

緑の風薫り 笑顔ゆきかう ふれあい文化都市

にいつ 新津

新津市第3次総合開発計画：平成7～16年度

水と緑のまち 快適で安らぎが漂うまち
明るく元気なまち 健やかで優しさが響きあうまち

人が輝き活力のみぎなまち にぎわいと交流のまち
豊かな人間味と文化の薫るまち 個性豊かな文化のまち